

- 1 会議名 総務・産業建設常任委員会協議会
- 2 日時 令和4年2月2日(水)
午前10時から午前11時30分まで
- 3 場所 正副議長応接室
- 4 出席委員 (委員長)片岡健一郎 (副委員長)梅村均
(委員)鬼頭博和、水野忠三、黒川武、堀 巖、榊谷規子
- 5 事務局出席 議会事務局長 丹羽至、同主任 高野真理子
- 6 委員長挨拶
- 7 協議事項

(1) 委員会代表質問に向けて

片岡委員長：前回の協議会で3案をお示ししたところだが、委員会代表質問ではどのテーマを取り上げるべきと考えるか。

水野委員：3つとも取り上げたらいいのでは。

梅村副委員長：健幸ロードは課題認識の共有だけでも十分なので、時間があれば取り上げ、食品ロスとブランド野菜は求めるものを明示できるといい。

片岡委員長：3つとも取り上げることでいいか。

(異議なし)

【五条川健幸ロード】

片岡委員長：梅村委員の言うとおりで、何を求めてこのテーマを取り上げるのかを明確にする必要がある。

梅村副委員長：除草が不十分であるとの意見を、議会としてもその通りだと思えばならそのままでもよい。解決策として、市民とともに進めてはどうか、としているが、市役所がやればよいという考えの人がいると意見が一致しない。ここまで踏み込むか。

榊谷委員：かつてはゆうわ会と協働でやっていたが、傾斜地であり危険な作業なので止めた経緯があることを考慮すべき。

黒川委員：幅広く捉えたらいいのでは。市内で山羊を飼っている市民もいるので、イベントにしてしまうのがいい。市が実施するのが基本と考える。業者委託が良い。業者であれば、刈っていいもの悪いものも判断でき、刈った草の処理もルートがある。市民から自分たちでやるという声があればそれはそれでいいが、業者委託同様に費用は市で持つべき。特に刈った草の処理。様々な提案をして、一緒に考えていこうという姿勢がよいのでは。

梅村副委員長：賛成。

鬼頭委員：業者だけではお金も掛かるので、何らかの形で市民も関わるができる仕掛けがほしい。クリーンアップ五条川で提案する。

梅村副委員長：交通安全街頭指導の日の1日を草刈りに充てる等。

片岡委員長：市が実施することを基本に、いかに市民にも関わってもらうか、が肝ということではないか。

(異議なし)

榊谷委員：山羊の提案も入れてほしい。傾斜に強く、草の処理が不要。臭いを気にするようだが、雌だと大丈夫なようだ。癒し効果もある。

片岡委員長：一例として取り扱うか、それとも一項目取り出して質問とするのか。

梅村副委員長：事例として挙げる。

【食品ロス削減の推進】

片岡委員長：磐田市ではごみの組成調査を元に、具体的な目標を立てていた。根拠がないと効果も見えにくい。まずは把握をすべきであることを提案したい。

黒川委員：岩倉市でも以前から可燃ごみの組成調査を実施していた。今も続けているかわからないが、あるいは(コロナ禍で)実施できない状況かもしれない。現行のやり方を聞き、そこからどんな情報を得ているか聞く。小牧岩倉衛生組合では、雑紙の多さに気付き、資源化に力を入れるようになった。

榊谷委員：生ごみのたい肥化から、食品ロス削減に施策の方向をシフトしていると以前の答弁であったが、磐田市のように同時進行でやってほしいということを書いてほしい。また、磐田市はゼロカーボンシティ宣言をしてその一環でゴミ減量などの各施策を推進していることも書いてほしい。

片岡委員長：組成調査を継続しているか、そこから何が得られているか。同時に生ごみのたい肥化も触れたい。全体的にごみを減量するなら両方やるほうがいいので。また、磐田市は事業者と協定を結んでいるため、施策への協力を呼びかけやすいように感じた。協定を結んではどうか、とするかそれとも値引きシールキャンペーンのようなことを実施してはどうか、とするか。

黒川委員：レジ袋削減もそうだったが、市内のスーパーや小売店も含めて、横並びなので全体に網をかぶせることが大切。協力、参加しやすい環境を整えることが大事。だから協定は有効。店長等も本部に話を通しやすくなるだろう。

梅村副委員長：視察を提案したときは、値引きシールキャンペーンを岩倉市でも実施したらと思っていたが、視察を経て、協定のウエイトの大きさを理解した。磐田市では、値引きシールに限らず、例えばばら売りの推進など、1つ以上の事業に協力することを協定の内容としている。

片岡委員長：協定を結ぶと施策を推進しやすくなる。

榊谷委員：やりやすくなるだけでなく、事業者と共に、共通認識に立ってSDGsの目標に向かうことができる。

堀委員：岩倉市で消費者協会のような組織がいまどのように動いているのかも

確認が必要。コンビニに参加してもらえるような方法も考えなくては。

鬼頭委員：磐田市はセブンイレブンの協力を得ていた。

黒川委員：昨年の11月に開催された新しい資本主義実現会議で、コミュニティフリッジの事例が挙げられていた。それを見て調べてみたら、全国で4か所見つけた。現在のフードドライブよりも合理的なやり方として今後、全国に広まっていくと思う。それを実施する団体が必要。

水野委員：今回の代表質問は、ごみの削減がメインなのか、困窮者支援がメインなのか、あるいは両方なのか。

梅村副委員長：総務・産業建設常任委員会の代表質問なので、ごみの削減がメイン。

片岡委員長：福祉施策の面は当然についてくるが、今回の委員会代表質問はあくまでも食品ロス削減がメインテーマ。

水野委員：場合によっては、食品ロスと福祉施策の方向性が必ずしも一致しないこともある。食品ロスがゼロになったら、フードドライブに誰も寄附しなくなる。

梶谷委員：そんなことにはならない。野菜の皮等、ごみは出る。

堀委員：福祉の観点を持ちつつ、広げ過ぎるとぼやけてしまうので、食品ロス削減を主軸に。

梅村副委員長：組成調査の状況と、食品ロスについてわかりやすく結果を公表してはどうか。

片岡委員長：知ってもらい、問題意識を持ってもらう。

梅村副委員長：時期によっても、取り方によっても結果は変わってくると聞いた。

片岡委員長：磐田市の組成調査はどのように実施しているかわからないが、同時に300袋と言っていた。

片岡委員長：組成調査のこと、施策の現状と予定、事業者への働きかけ、協定の締結、コミュニティフリッジ。全庁的な取組みについては取り上げるべきか。

黒川委員：食育計画で食品ロスについても触れているはず。消費者団体もあるので、統括は商工農政課だと思う。食品ロスだけに特化した計画はないはず。

片岡委員長：問題提起できるような質問の仕方にする。

水野委員：全庁的な取組に関連して、数値目標を設定するかどうか。磐田市は20%削減という目標を掲げていた。

梶谷委員：愛知県の中では岩倉市のごみ搬出量は少ない。

堀委員：磐田市と人口比較すると岩倉は半分以下。職員数も少ないので、岩倉市はプロジェクトチームが常套手段。環境省からの通知を供覧しているだけでは進まないし、押し付け合いになってはいけないので。

【ブランド野菜】

片岡委員長：市民から意見をたくさんいただいたので取り上げるべきと考える。

商工農政課のヒアリングで聞いた内容もあるが、やはり認知度が低いこと。それ以前に、供給量が少ない。分母を増やさない限り、広がりも知れている。上げられるのか。

堀委員：ブランド野菜戦略としては失敗。ヒアリングの後に生産者と少し話したら、生産意欲、魅力を感じていない。白菜より高いので消費者も買わない。生産者の視点も必要なので、作るのを辞めた人の話も聞かないといけない。ちっチャイ菜で果たしていいのか。

榊谷委員：私も生産者に聞いたら、同様に供給量を増やすことは見込めないと。

梅村副委員長：そもそもこれがブランド野菜として成立するのか、見当する、見極めることが必要。

榊谷委員：一方で市民からこれだけ意見があったことも伝えなくては。

片岡委員長：相反する。

水野委員：ブランドを確立するのは何のため。生産量を増やしたいのか、シティプロモーションなのか。

梅村副委員長：ヒアリングによると、農業振興のようだ。

水野委員：では生産者にとって魅力がなくてはいけない。その意味でちっチャイ菜でいいのかどうか。

堀委員：虫が付きやすいとか、難しい面もある。市が補助を出すとか。

榊谷委員：学校給食で使う時も、洗浄が大変と聞いた。

梅村副委員長：市民の意見もあるので、もう少し広めるためにやってみて、一方で虫が付きやすいとか育てにくいということがあるのなら、どこかで見切りをつけたらという考えもある、と。

黒川委員：市民の声を聴きながら販路拡大等の今後の取組を聞く。また、違う野菜はどうか。知多市の特産のペコロスは岩倉でも作れると思う。また伝統野菜に着目し、岩倉でかつて生産されていたが衰退してしまった野菜を調査研究する。視点を変えてみてはどうか。

榊谷委員：事業費 30 千円でカリフラワーの別品種の研究はしている。

堀委員：一時期、北島地区はカリフラワーの収穫量が日本一だった。ただ、消費者がカリフラワーより栄養価が高いという話でブロッコリーを好むようになって、売れなくなったようだ。ちっチャイ菜も栄養価が高いということが市民に伝わっていないし、単に白菜のほうが安いから買う、その辺りをどうテコ入れしてブランド野菜にしていくかが必要。

梅村副委員長：伊吹おろしを利用して切り干し大根を作る風景が見られたと市史に書いてあった気がする。掘り起こすと何かあるかも知れない。

梶谷委員：収穫と観光を結び付けている田原市に倣ってブルーベリーの作付けについて一般質問した議員がいた。

堀委員：ちっチャイ菜が買える産直センターは5時で閉まってしまう。スーパーに売っていないと口にすることはないだろう。食べたことがない人が多いのではないか。

鬼頭委員：生産されないと販路も拡大できない。

黒川委員：スーパー側にしてみたら、安定供給されないのは困るということだろう。

梶谷委員：鈴井町の水耕栽培だと、供給量が安定しているからか、小松菜をスーパーに置いてもらえるようになった。

水野委員：ちっチャイ菜の水耕栽培は出来ないのか。技術面と採算面とあるが。

梅村副委員長：広めるにしても委員会から提案できるものがあればいいが、策を持ち合わせない。

鬼頭委員：小学校で栽培してポスターコンクールをやる、という子どもからの意見がある。例えば学校で栽培してもらったら子どもたちの認知度もあがる。

片岡委員長：問題提起しつつ、最後はちっチャイ菜に拘らず他の視点で研究していてもいいのではないか、予算も本当に必要なら増額すべき、という質問構成。

堀委員：新規就農者を増やす観点だけでなく、誰でも気軽に、ベランダでも作れるという話をしていたので、そうであるなら種を配布するとか。力の入れ方、戦略の立て方に失敗している。

片岡委員長：市民に気軽に作ってもらう仕掛け。

水野委員：ちっチャイ菜栽培キットとか。

片岡委員長：再度、まとめ直すので、次回の協議会で最終調整としたい。

(2) その他

次回は2月15日(火)午後1時30分から。委員会代表質問の通告要旨の最終確認。